

メディカルはこだて

Medical Hakodate

2023

May

85

高橋病院は2024年秋に移転

リハビリ部門を拡充し、広いコミュニティスペースを確保

放射線治療とマンモグラフィ検査に

患者経験価値(PX)を導入

人工知能(AI)搭載のCT装置を導入



市立函館病院はロボット手術センターを設置

アジア太平洋呼吸器学会で若手研究者賞を受賞

北海道救急医学会学術集会で優秀演題賞



高橋病院新築移転後の外観イメージ図

高橋病院（高橋肇理事長）は2024年秋、市内時任町へ新築移転する。明治27年高橋米治医院の開院が出発点の同病院は、建物の老朽化などが移転の理由だった。「地域住民に愛される信頼される病院」を理念に掲げ、地域全体でリハビリテーションを中心とした医療福祉ネットワーク事業を開拓してきた。現在は119床の高橋病院本院を中心に、湯の川クリニック、介護医療院、介護老人保健施設「ゆとりろ」、ケアハウス「菜の花」、訪問介護ステーション「元町」、グループホーム「秋桜」、グループホーム「なでしこ」、認知症対応型デイサービス「秋桜」、居宅介護支援事業所「元町」、居宅介護支援事業所「なでしこ」、小規模多機能施設「なでしこ」、訪問リハビリステーション「ひより坂」を有する。法人施設内外の継ぎ目のないネットワーク構築や、患者サービス向上の手段としてIT活用を積極的に進めており、平成20・21年度には2年連続で経済産業省「IT経営実践認定組織」に選ばれている。

クラスラー型のデザインは患者とスタッフにメリット

移転先は北海道旅客鉄道株式会社

社（以下JR北海道）の社宅の敷地。JR北海道は函館市内に「時任社宅」「港社宅」「千代台社宅」の3カ所の社宅を所有しているが、時任社宅を同病院へ売却。同社宅の敷地内には4階建ての建物が3棟あつたが、いずれも築40数年が経過していた。「敷地は旧国鉄の土地であることから、売却のハードルは高いとされていましたが、国土交通省の了承を得て2020年12月に売買契約が締結しま

した」というのは法人業務管理室・質向上推進室長の福澤高廣さん。JR北海道からは社会医療法人である同病院が公益法人という点を高く評価された。売却された土地の面積は1663.37坪（5498.77平方メートル）。今年6月から着工予定だ。

2021年6月には新築移転事業の基本設計業者を選定するためプロポーザル審査を実施した。

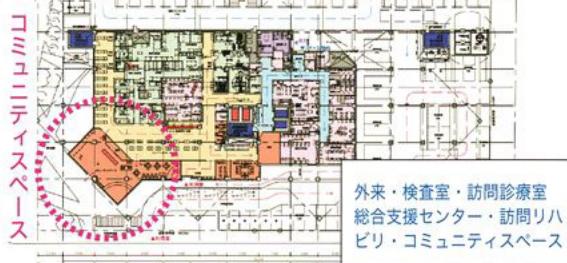
「全7社による審査の結果、日揮（につき）株式会社（神奈川県横浜市）と基本設計業務契約を締結しました。新病院の建物は鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積約9200平方メートルです」（福澤さん）。内科や循環器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科などの10の診療科は変わらない。病床数は一般病棟59床を39床に減らし、リハビリテーション病棟を60床から80床へ増やす（介護医療院の60床はそのまま）。計画によ

ると、1階は外来や検査室など。2階は回復期リハビリテーション病棟と460平方メートルのリハビリテーション室。3階は地域包括ケア病棟と介護医療院。4階は会議室や事務室、職員専用ラウンジなどとなっている。1階部分はピロティになつてるので、そこに35台ほどの患者用駐車場を確保した。

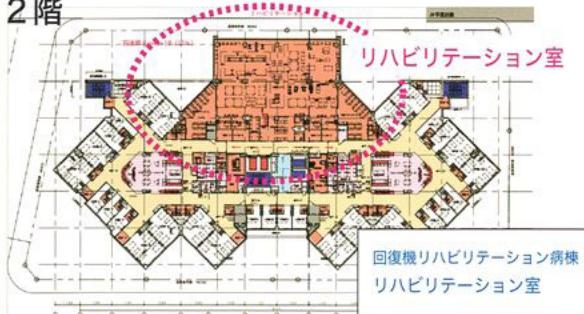
採用された建物は直方体ではない独特な形だ。特徴的な外観はク

新病院のフロア図

1階



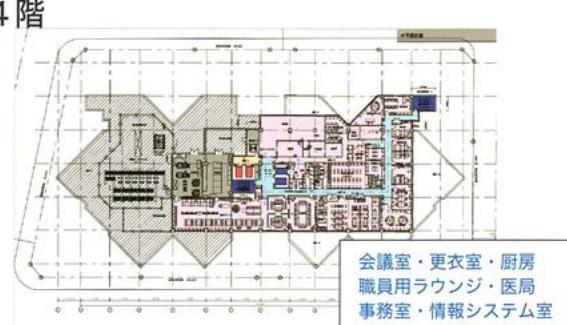
2階



3階



4階





法人業務管理室
質向上推進室室長
福澤高廣

ラスター型と呼ばれるデザインで、クラスターというのは複数の原子、分子が集まって構成される集合体を意味する。「病棟の中央にスタッフステーションを配置し、その周囲に病床群を配置する構造となっていますが、クラスター型は各病室への導線を最も短くする構造となります。スタッフは患者さんの距離が短いことは双方にメリットがある」と教えてくれる。回復期ではリハビリが必要不可欠だ。現在は病棟からリハビリ室がある2階まで移動するなど縦の動きが必要だったが、新病院では回復期リハビリステーション病棟とりハビリ室は同じフロアに設けられるなど、リハビリ室への動



地域包括ケア推進室室長
野田正貴

不可欠だ。今は病棟が必要な2階でも配慮した。

地域住民が集う場所には コミュニティスペースは

新病院は1階に160平方メートルのコミュニティスペースを設けることも大きな特徴だ。作業療法士の野田さんは現在、病院におけるリハビリの担当と、法人内で

移転後もクリニックの機能を残すなど地域貢献を続ける

「建築資材が高騰しているので、各部署との調整に苦慮しています」と語る。福澤さん、野田さん、佐々木さんの3人は共に新病院「建設準備室」の事務局を担当している。新病院ではスタッフを募



総務課課長
佐々木康人

は地域包括ケア推進室の室長の役割を担っているが、新病院ではコミュニケーションスペースの企画や運営を中心に関わる予定だ。「これだけの広さがあるコミュニケーションスペースを有する病院は全国にもほとんどありません。地域の人に訪れてもらおう場所、外来患者さんが立ち寄る場所、入院患者さんが休憩し、ご家族と談笑する場所にな

ることを目指しています」と野田さんはコミュニケーションスペースの目的を教えてくれる。「地域の高齢者や近くの学校の児童・生徒などとの世代交流ができる場所にもしたいです。当院の健康教室や町会の催しなど、スペースの活用を積極的に推し進めていきます」(野田さん)。

ることを目指しています」と野田さんはコミュニケーションスペースの目的を教えてくれる。「地域の高齢者や近くの学校の児童・生徒などとの世代交流ができる場所にもしたいです。当院の健康教室や町会の催しなど、スペースの活用を積極的に推し進めていきます」(野田さん)。

1階コミュニティスペースのイメージ図



コミュニティースペースの多世代の顧客獲得を目指した地域貢献の取り組み

16～20歳台	フリースペース（コワーキングスペース／図書スペース）とした通いの場
30～40歳台	お子様連れでも外来受診ができるように子供が遊べる空間 マルシェイベント (定期的な出張販売、年数回のイベントなど具体的な出店先は今後検討) 簡易的な預かり（外来診療に合わせて曜日限定で）
50～60歳台	健康づくり教室（ストレッチ、ヨガ、ピラティスなど） 糖尿病予防、運動・栄養指導、料理教室
65歳～	介護予防教室（プラチナフィットネス）、福祉用具の展示会、スマート教室